



安佐町

鈴張すずはり

名峰が道しるべ 四方を山に囲まれた交易中継地

有名な職人が由来

鈴張は四方を山に囲まれ、東谷、西谷、郷の大きく3地区に分けられます。鈴張小学校の校歌に「♪堂床山は緑濃く」と歌われている標高859・6mの堂床山と、飯室から見え始めて鈴張に帰る道しるべとなる片廻山はそれぞれ東谷川、西谷川の源となっています。鈴張は2つの川に沿って東谷と西谷に分けられ、2つの川が合流したところを郷と呼び、川は鈴張川となって太田川へ流れています。

交通は、東谷は明神峠(国道261号)を越え千代田路へ、西谷は豊平路(県道40号)へと続いています。鈴張川沿いの道に沿った旧町並屋敷は地形的立地から、江戸時代初期より主に芸北との交易中継地の町屋として成り立ってきました。道の片側に商店街が並び、反対側の川岸の桜が咲く頃には温泉街のような風情を醸し出しています。

「鈴張」の地名は、昔、鈴を上手に張る(空洞の器を作ることを「張る」という)鍛冶屋がいたことから言

われています。平安時代には、「錫張之里」であったと記された資料もあります。

また、江戸時代には鈴張村と関屋村に分離されていたことがありました。旧関屋村が鈴張村に復帰したのは、明治12(1879)年のことでした。

浅野家の休憩所も

左上の写真は鈴張の市から見た風景。画面中央に鈴張小学校と旧村社の宮崎神社、右側に鈴張保育園が見えます。また鈴張にはお寺が三か寺あり、右から、原爆慰霊碑のある長覚寺、広島藩主浅野家の休憩所となった稱名寺、江戸時代の建築様式を今に残す妙法寺が見えます。

山は右手に、安佐北区で2番目に高い堂床山、左手に片廻山(682m)がそびえます。手前に見えるのは町屋の旧国道です。

また、陰陽分水嶺のある明神峠の笹原明神をはじめ、現在確認されているだけでも御堂や祠が35社以上もあり、それらを探して歩くのも面白いでしょう。



1 旧国道の桜 旧鈴張郵便局から続く桜並木。左手に商店街、右手に桜が続く町屋であった。大正から昭和35年頃まで、牛の市が開かれていた。



2 鈴張街道豊平分かれの桜

鈴張街道を千代田方面に向かって東谷へと行くと、豊平分かれ交差点から鈴張小学校の校庭へと桜が続く。



3 行根の陽光桜

陽光桜が、行根の青少年野外活動センターへ抜ける途中で見事な花を咲かせている。





お祭りで販売される
薬師館と地獄絵図が有名

6 おやくしさんと地獄絵図

上郷にあって「お薬師さん」と呼ばれ、4月8日の薬師祭りで売られる「薬師館」と地獄絵図の「往生要集絵図」(下)は有名。もとは妙薬院といい戸崎にあったが、水害で現在の場所にお堂が建てられ、妙林寺と名付けられた。



戦国時代の山城跡
城主は武田家家人

5 東殿山城社の碑文

東殿山城主民部丞は若狭・丹波の守護武田元信(安芸武田氏と一族)家人(家臣)としてこの地域を領有する(元禄17年の鈴張地誌)。末孫家は今に継ぐ(関東在住)。城址は鈴張星が丘団地第3公園脇。



地区のコミュニケーションの中心
自治会や社協の事務所も

4 鈴張地区集会所

鈴張地区のコミュニケーションの中心、散策の基点となる場所。鈴張学区連合自治会や鈴張地区社会福祉協議会の事務所であり、鈴張の情報の拠点でもある。



お薬師さんの地獄絵図「往生要集絵図」



大内家の家人の居城
城主一族は今も地元に残続

8 関の城址

山口の守護大名大内義隆の家人、横山右馬之助眞高の居城(手前左)。義隆の下文(くだしぶみ「命令書」)今に残る。鈴張市界隈の各横山家は城主の実弟を祖とする。



祖は可部の高松城主
母方を継ぎ、隠棲帰農

7 戸谷志摩守の墓石

戸谷志摩守直忠は可部高松城主熊谷豊前守元直(クリスチャン大名)を祖父とする熊谷家の庶子であったが母方の城主家(豊平戸谷村)を継ぎ鈴張村に隠棲帰農した。



石垣100選にも選出
鈴張のマチュピチュ

11 棚田と石垣

堂床山山麓に広がる棚田は絶景! 石垣100選にも選ばれ、まさに鈴張のマチュピチュである。鈴張農耕有史以来開墾し築石され続け、江戸後期ごろ現在の姿になったとされる。旧国道大曲りから、全景が見える



大きく蛇行した旧国道
日露戦争時の軍用道路

10 旧国道「大曲り」

この辺り4区の住民は大蛇行した旧国道を「大曲り」と呼ぶ。明治10(1877)年代広島〜浜田への軍事軍用道路として突貫工事され当時のロシア対策でもあった。乃木希典大将視察の際、本地に宿泊(三戸家前石碑)。



鈴張村の初代村長
高宮や佐伯の郡役所で手腕発揮

9 鈴張村初代村長片山翁の碑

明治22(1889)年、初代村長。昭和7(1932)年、第17代に再就任。役人時代は高宮・佐伯の両郡役所に奉職し能吏として行政手腕を発揮、湯来町史にその業績が載る。片山家は関の城主を祖とする。

鈴張 すずはり



鈴張三ヶ寺内で最古
往時の建築様式は文化財的評価

15 妙法寺

鈴張三ヶ寺の中でも最も築年数が古く、江戸中期享保11（1726）年の築年とされる。往時の建築様式を伝える文化財的評価を受けている。



原爆被災者を慈悲の心でお見送り
追悼の碑が境内に

13 長覚寺

原爆で被災された人が多く収容され、当時の住持が博愛の念に立った慈悲のお見送りを行った。その碑が境内にある。



往年の街道を指し示す
地域に残る道標

12 14 旧国道の標石

旧国道の旧鈴張郵便局前（⑫左の写真）に、町屋の栄えた頃の往還道を示す標石が残っている。また、天道路の入口（⑭右の写真）にも標石が残っている。天道路を通して今吉田へ抜けていた。



和歌・俳句絵馬が伝わる 18 宮崎神社

永正元（1504）年、宮岡山に社殿が建立。享和元（1801）年、現在の社殿が再建され、明治5（1872）年に村社となる。毎年11月3日に祭礼が行われ、鈴張神楽団による神楽（右上）の奉納と、式典の中で巫女（右下）による「浦安の舞」が奉納される。社殿には、鈴張先人達の素養がにじむ和歌・俳句の絵馬が明治に奉納され今に残る。



本堂は建てず持仏のみ

16 圓竜寺末寺 河野三朴屋敷跡

かつて鈴張西谷にあった河野三朴家は寺町圓竜寺の末寺とし、本堂は建てず「持仏」のみ。とくに阿坂、豊平方面の檀家への御勤めをし、代々三朴を名乗り宮崎神社創建一族として神仏習合の家筋。



江戸時代殿様が休憩 古文書に記される

17 稱名寺

江戸時代の古文書にかつて殿様が当地域に来られた際に当寺がご休憩所となった記録が残る。（国郡志書出帳）

ちょっと

..... よりみち

すずはりまつり・星が丘夏まつり

すずはりまつりは毎年11月に行われる。すずはり自治会の主催で、農産物品評会や、地区住民の作品展示、地区の芸能発表や有志による発表などが行われる。
また、星が丘夏まつりは毎年8月に星が丘団地の第3公園で開催される。



堂床山とたたら遺跡

堂床山中腹に「[ばた山]」状態の鉄滓（かなくそ）があり、平成29年に広島市初となる中世たたら遺跡と確認された。山頂に廃寺跡があり、鉱物探索を兼ねた修験者道場と思える。
同山の麓は近世初めから明治の初めまで関屋村と呼ばれていた。



鈴張大花田植え

当地の花田植えは近世に北広島町から伝わり、戦後復活し変遷を経て現在に至り、「鈴張東上花田植保存会」として次世代に確実に引き継がれている。（安佐公民館冊子参照）
毎年5月に東谷地域で開催されていたが、平成30年をもって一時休止となった。